

# 冬春野菜等の需要に応じた生産の推進について (令和4年度冬春野菜等の需給ガイドライン)

令和4年6月

農林水産省農産局園芸作物課

野菜価格安定制度における計画生産・計画出荷の仕組み	.....	2
指定野菜等の価格・出荷量の変遷（H22～H24、H30～R2平均の比較）	.....	3
令和4年度冬春野菜等の需給ガイドライン（概要）	.....	4
冬キャベツの動向	.....	6
秋冬だいこんの動向	.....	7
秋冬はくさいの動向	.....	9
冬レタスの動向	.....	11
冬春トマトの動向	.....	13
たまねぎの動向	.....	15

# 野菜価格安定制度における計画生産・計画出荷の仕組み

- 需要に即した計画的な生産・出荷を推進するため、国は指定野菜について概ね5年ごとに需要及び供給の見通しを策定するとともに、年2回(冬春・夏秋)需給ガイドラインを策定。この需給ガイドラインを目安として、出荷団体等は、供給計画を作成し、計画に即した野菜の出荷に努める仕組み。
- 供給計画に即した出荷がなされるよう、指定野菜価格安定対策事業においては、供給計画と出荷実績との乖離度に応じて生産者補給交付金を減額する措置のほか、前年度の価格低落時における需給調整の取組実績等に応じて補填率に差を設ける措置を導入。

## 野菜価格安定対策事業における措置

### 需要及び供給の見通し(国)

(概ね5年ごとに策定)

指定野菜の種別ごとに、概ね5年後の需要量、供給量、国内産供給量の見通しを策定

### 需給ガイドライン(国)

(毎年、6月:冬春野菜、12月:夏秋野菜に策定)

直近の需給動向等を踏まえ、種別ごとに次期作の需要量、供給量、国内産供給量の見通し、作付面積の指標を策定

### 供給計画(出荷団体等)

需給ガイドラインを目安とし、種別ごとに年2回策定(播種・定植前の当初計画、出荷前の確定計画)

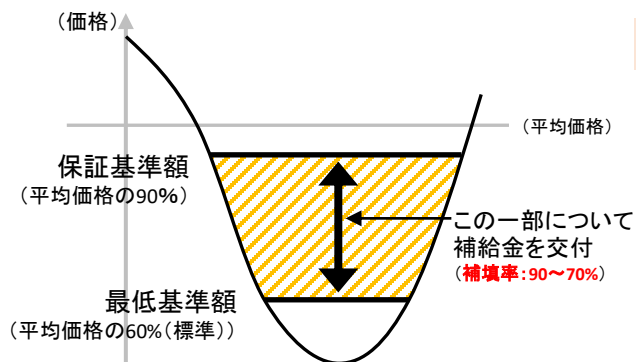
- ① 供給計画の作成を加入要件とする(契約野菜収入確保モデル事業を除く)
- ② 供給計画と出荷実績との乖離度に応じて交付金を減額

<供給計画と出荷実績の乖離度合い>



※ ±20%から±60%まで±10%間隔で乖離度合いを区分し、減額率は0~60%。

- ③ 過去3年の供給計画と出荷実績の乖離度や、緊急需給調整事業の取組実績等に応じて、生産者補給交付金の補填率を設定



### 補填率90%(産地区分I)となる場合

以下の①・②の両方を満たす出荷団体

- ① 次のa又はbに該当すること
  - a. 産地強化計画(加工・業務用推進タイプ)を策定
  - b. 産地強化計画を策定し、直近3か年の計画的出荷割合が基準を満たす\*
- ② 前年度において、対象品目の価格が緊急需給調整事業の発動価格以下となった際、対象品目の出荷があり、かつ、緊急需給調整事業を実施したこと

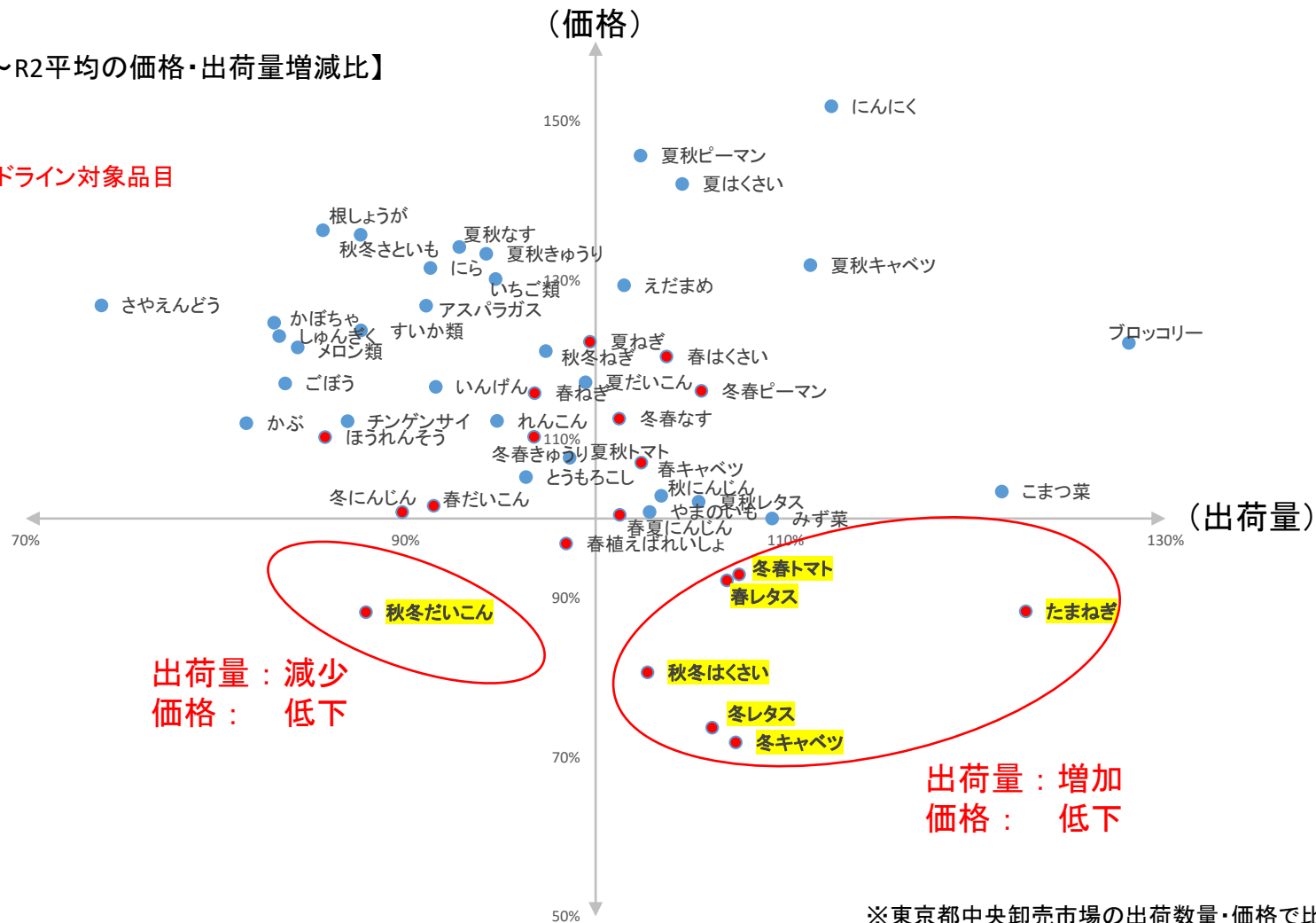
※ 直近3年の各年の計画的出荷割合 < 120/100、かつ、計画的出荷割合の直近3年平均 < 110/100

# 指定野菜等の価格・出荷量の変遷（H22～H24、H30～R2平均の比較）

- H22～H24平均、H30～R2平均の価格及び出荷量を比較すると、需要に対して供給が不足気味であるため価格が上昇傾向の品目が多いものの、一部の品目は需要に対して供給が過剰気味であるため価格が低落傾向。
- **価格が低落傾向にある品目には、冬春系野菜（冬春野菜等ガイドラインの対象品目）が目立つ状況**にあり、価格の安定を図っていく上で、特にこれらの野菜について、**需要に即した生産・出荷に一層取り組むことが重要**。

【H22～H24平均、H30～R2平均の価格・出荷量増減比】

● : 冬春野菜等ガイドライン対象品目



# 令和4年度冬春野菜等の需給ガイドライン(概要)

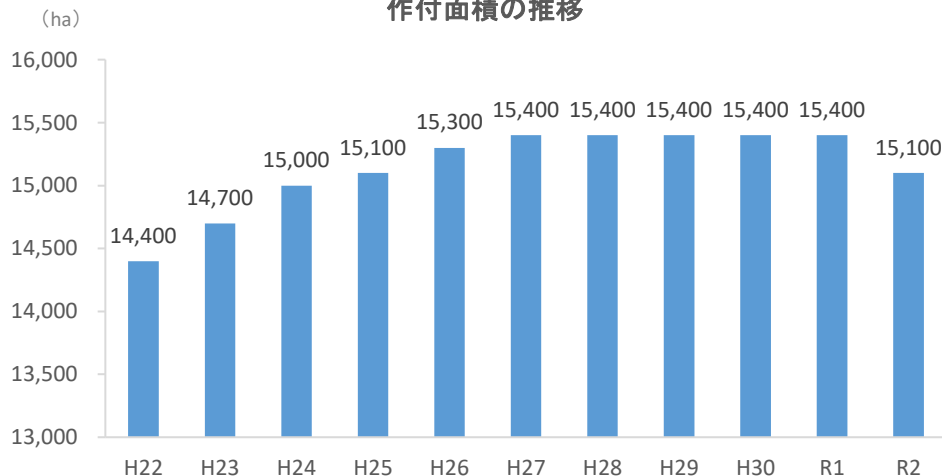
- 需給動向や人口、単収等のすう勢を基に、有識者の意見も踏まえつつ、指定野菜に係る「需給ガイドライン」を策定。
- 令和4年度冬春野菜等の需給ガイドラインでは、中長期的に供給過剰気味である冬キャベツ、秋冬だいこん、冬春トマト(大玉)、秋冬はくさい、冬レタスなど、**多くの種別について前年度ガイドラインよりも低い作付面積の指標を提示。**

種別等	需要量(t)	供給量(t)	国内産供給量(t)	作付面積(ha)		
				前年度ガイドライン比	前年度作付実績比	
冬キャベツ	421,300	597,200	591,600	15,100	98.7%	100.0%
春キャベツ	258,600	366,600	361,800	8,800	100.0%	98.9%
冬春きゅうり	276,500	303,300	288,700	2,680	98.5%	101.9%
秋冬だいこん	699,900	827,300	816,500	19,800	97.1%	99.5%
春だいこん	173,900	205,600	200,300	4,230	97.2%	100.7%
たまねぎ	1,329,500	1,554,300	1,191,000	23,600	100.0%	92.5%
うち北海道産	774,200	905,100	754,400	12,800	100.0%	87.7%
うち都府県産	555,300	649,200	436,600	10,800	100.0%	99.1%
冬春トマト	326,700	391,600	387,200	3,790	101.3%	98.7%
うち大玉トマト	243,800	292,200	290,000	2,680	98.2%	99.6%
うちミニトマト	82,900	99,400	97,200	1,110	109.9%	96.5%
冬春なす	101,500	117,400	115,100	1,040	95.4%	100.0%
冬にんじん	299,200	328,200	228,700	7,540	98.3%	100.0%
春夏にんじん	242,000	265,400	159,400	4,160	96.3%	101.5%
春ねぎ	61,900	90,300	77,000	3,330	97.4%	101.5%
夏ねぎ	70,000	102,200	89,000	4,880	98.0%	100.8%
秋冬はくさい	464,100	580,800	579,500	12,300	99.1%	98.4%
春はくさい	92,900	116,300	115,400	1,800	100.0%	98.4%
ばれいしょ	1,787,000	2,213,500	1,160,300	74,800	96.7%	104.0%
冬春ピーマン	77,900	96,400	75,800	710	98.6%	102.9%
ほうれんそう	231,700	279,900	217,700	19,800	98.5%	101.0%
冬レタス	149,200	183,400	177,300	7,600	98.8%	100.5%
春レタス	93,200	114,600	114,300	4,080	99.0%	101.7%

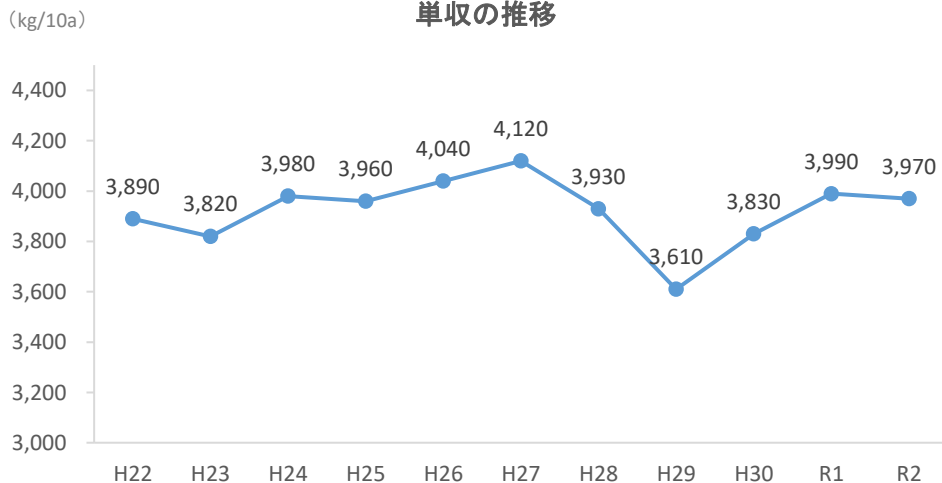
# 冬キャベツ(11月～3月)の動向 ①

- 中長期的比較(H22～H24,H30～R2比較)では、作付面積は4%増加。出荷量は7%増加し、価格は低落傾向。
- 年により差があるものの、2月上旬から3月下旬にかけて、出荷量が増加し、価格が低落する傾向が見られる。

### 作付面積の推移



### 単収の推移



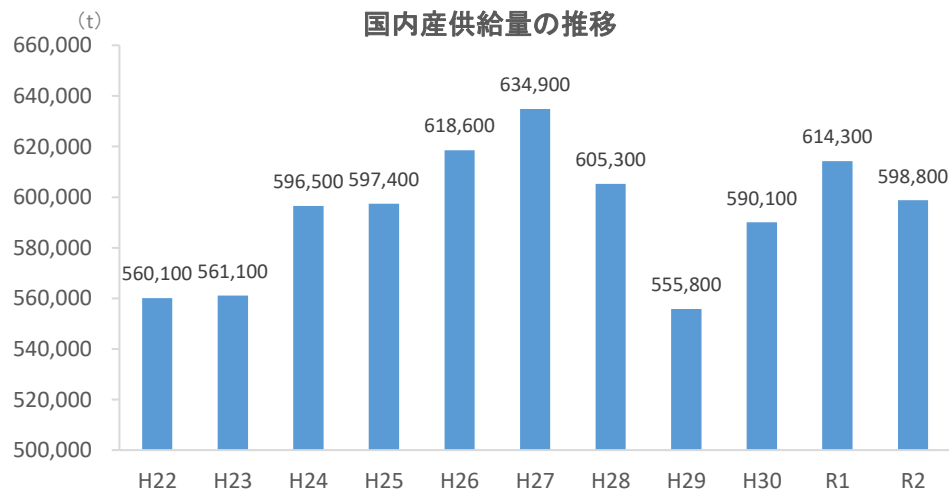
### 出荷量上位

	出荷量(t) (H22-H24平均 → H30-R2平均)	作付面積(ha) (H22-H24平均 → H30-R2平均)
1. 愛知県	177,567 → <b>183,733</b> (+3.5%)	4,320 → 4,087 (▲5.4%)
2. 千葉県	61,567 → <b>55,467</b> (▲9.9%)	1,603 → 1,443 (▲10.0%)
3. 鹿児島県	37,667 → <b>50,467</b> (+34.0%)	1,170 → 1,507 (+28.8%)
4. 茨城県	31,200 → <b>36,633</b> (+17.4%)	815 → 922 (+13.1%)
5. 神奈川県	23,900 → <b>21,433</b> (▲10.3%)	593 → 517 (▲12.8%)
全合計	502,933 → 540,067 (+7.4%)	14,700 → 15,300 (+4.1%)

### 面積増加率上位

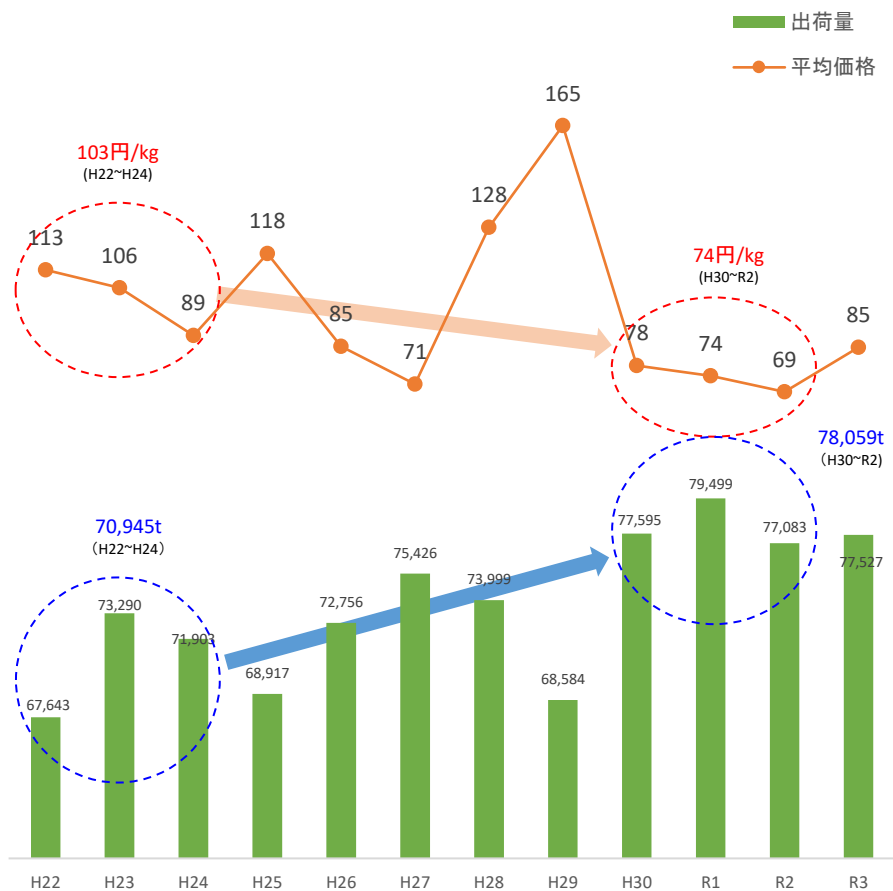
	作付面積増加割合 (H22-H24平均 → H30-R2平均)	出荷量(t) (H22-H24平均 → H30-R2平均)
1. 滋賀県	+107.0% (142ha → 294ha)	2,787 → 7,650 (+174.5%)
2. 福井県	+67.3% (52ha → 87ha)	530 → 2,067 (+290%)
3. 愛媛県	+34.0% (147ha → 197ha)	3,690 → 6,183 (+67.6%)
4. 鹿児島県	+28.8% (1,170ha → 1,507ha)	37,667 → 50,467 (+34.0%)
5. 埼玉県	+28.6% (206ha → 265ha)	5,800 → 8,557 (+47.5%)

### 国内産供給量の推移



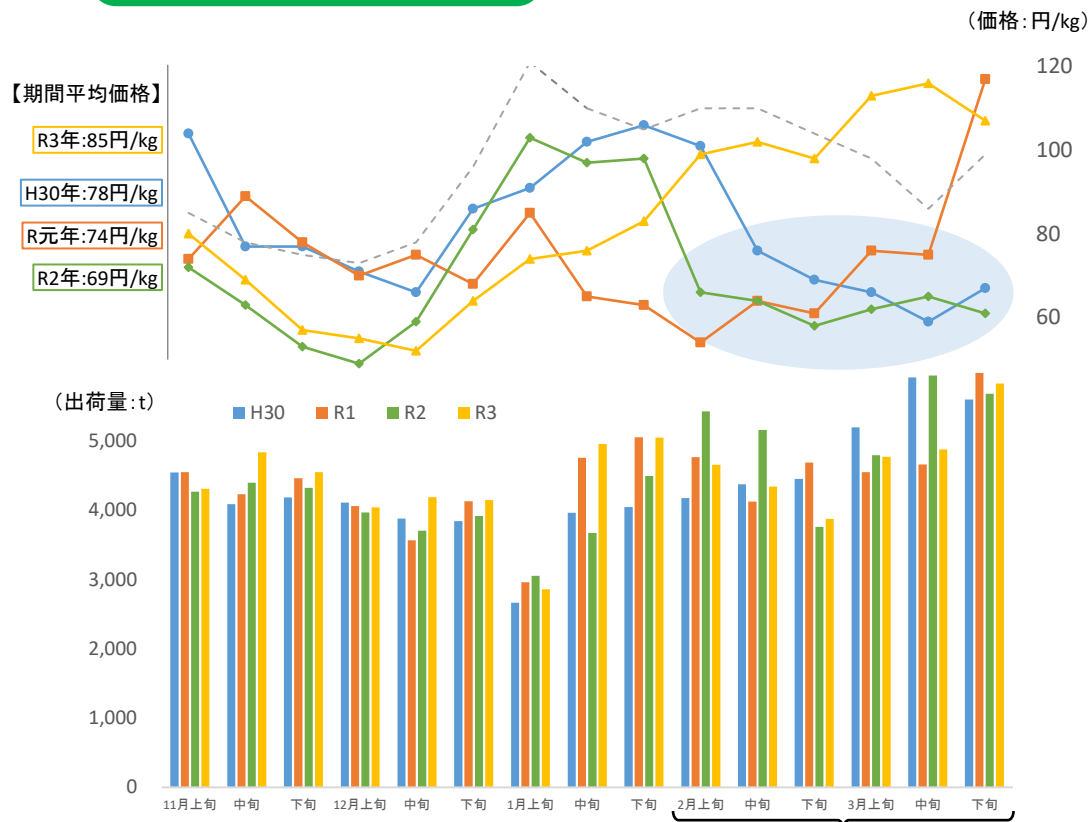
# 冬キャベツ(11~3月)の動向 ②

## 価格と出荷量の推移



※東京都中央卸売市場(9市場)における出荷量・価格

## 旬別の価格と出荷量の推移



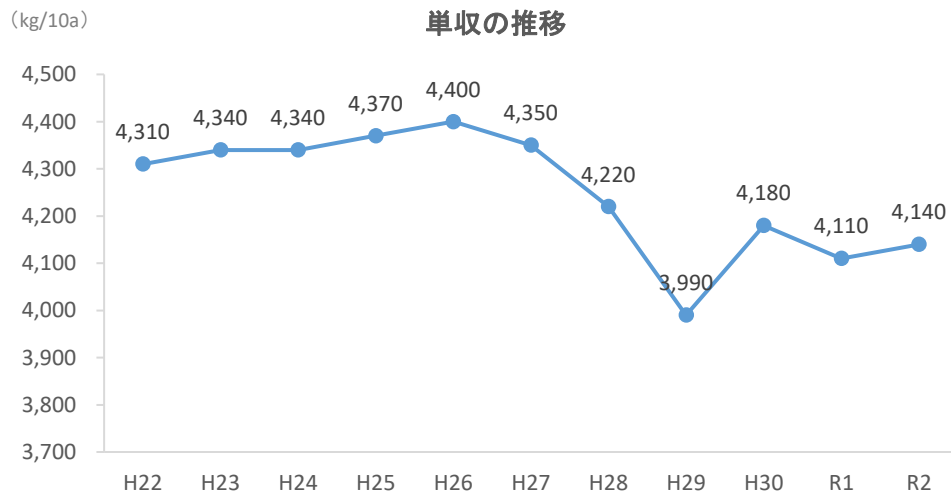
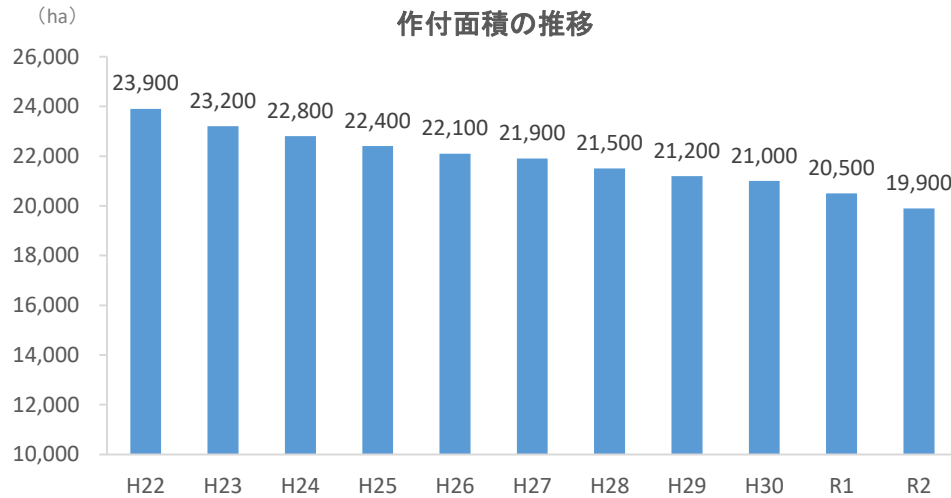
### ● 2月上旬~3月下旬の主産県 (価格が低落したH30年、R元年、R2年) (単位: t)

H30年		R元年		R2年	
愛知県	16,551	愛知県	18,113	愛知県	16,487
千葉県	6,272	千葉県	4,859	千葉県	6,515
神奈川県	5,755	神奈川県	4,578	神奈川県	6,345
静岡県	412	鹿児島県	252	静岡県	410
茨城県	252	静岡県	219	茨城県	152
全体合計	29,711	全体合計	28,770	全体合計	30,762

※東京都中央卸売市場のうち4市場(築地、大田、豊島、淀橋)における出荷量・価格

# 秋冬だいこん(10月～3月)の動向 ①

- 中長期的比較では、作付面積・出荷量ともに約12%減少しているものの、需要の減少が大きく、価格は低落傾向。
- 年により差があるものの、11月中旬から12月中旬に出荷量が増加し、価格が低落する傾向が見られる。

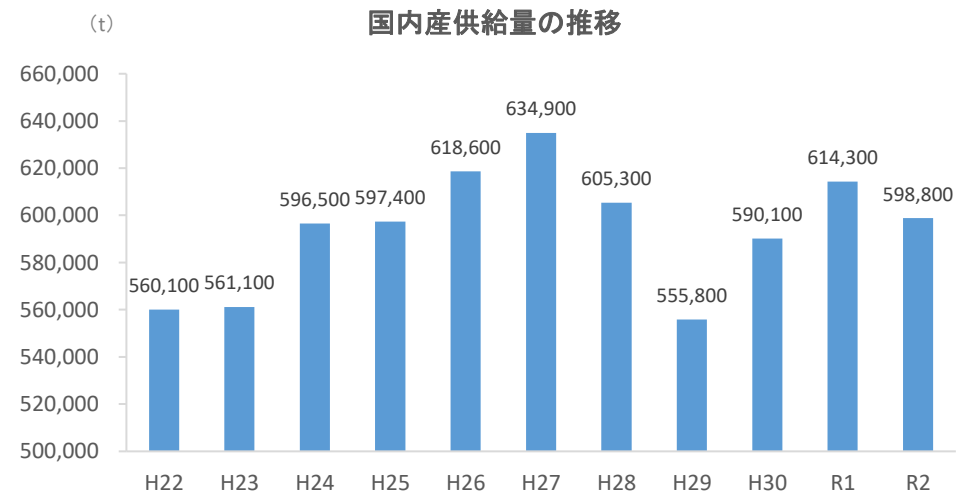


出荷量上位

	出荷量(t) (H22-H24平均 → H30-R2平均)	作付面積(ha) (H22-H24平均 → H30-R2平均)
1. 千葉県	82,033 → <b>79,967</b> (▲2.5%)	1,760 → 1,557 (▲11.5%)
2. 鹿児島県	76,033 → <b>70,200</b> (▲7.7%)	1,740 → 1,687 (▲3.0%)
3. 神奈川県	81,667 → <b>66,567</b> (▲18.5%)	1,043 → 966 (▲7.4%)
4. 宮崎県	87,400 → <b>62,633</b> (▲28.3%)	2,010 → 1,743 (▲13.3%)
5. 茨城県	38,633 → <b>34,400</b> (▲11.0%)	994 → 914 (▲8.0%)
全合計	748,467 → 657,967 (▲12.1%)	23,300 → 20,467 (▲12.2%)

出荷量増加率上位

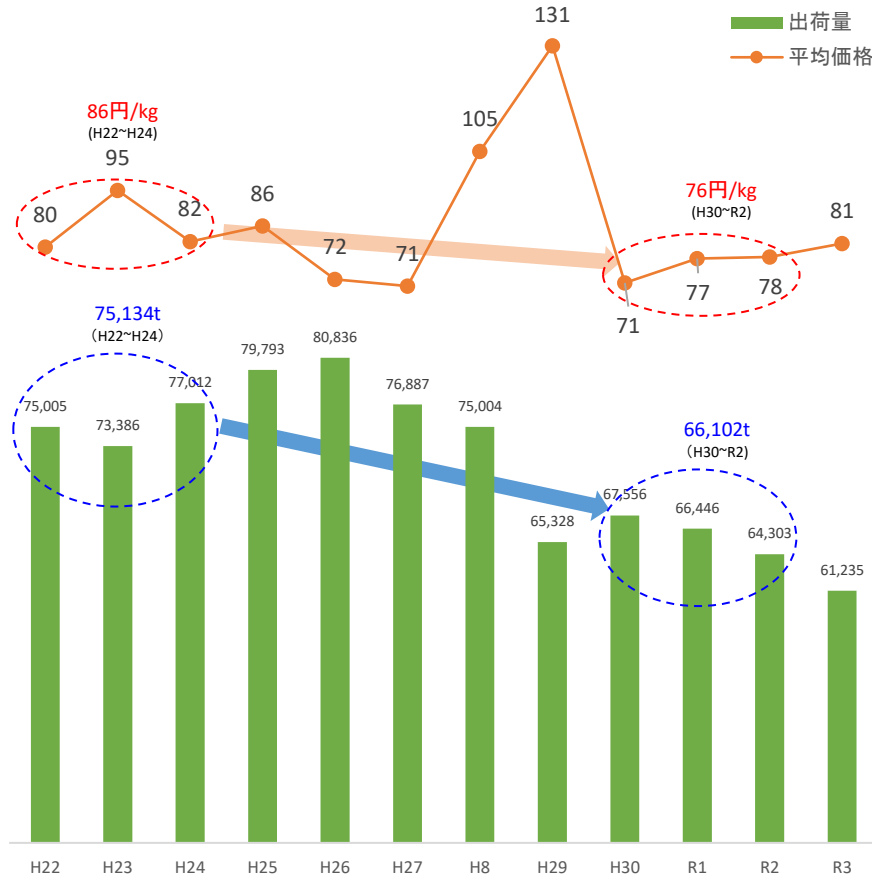
	出荷量増加割合 (H22-H24平均 → H30-R2平均)	作付面積(ha) (H22-H24平均 → H30-R2平均)
1. 富山県	+114.3% (1,126t → 2,413t)	160 → 154 (▲3.8%)
2. 福井県	+28.2% (2,763t → 3,543t)	254 → 211 (▲16.9%)
3. 埼玉県	+8.9% (10,313t → 11,233t)	390 → 370 (▲5.1%)
4. 秋田県	+8.2% (4,507t → 4,877t)	505 → 460 (▲8.9%)
5. 新潟県	+7.6% (29,567t → 31,800t)	1,447 → 1,297 (▲10.4%)





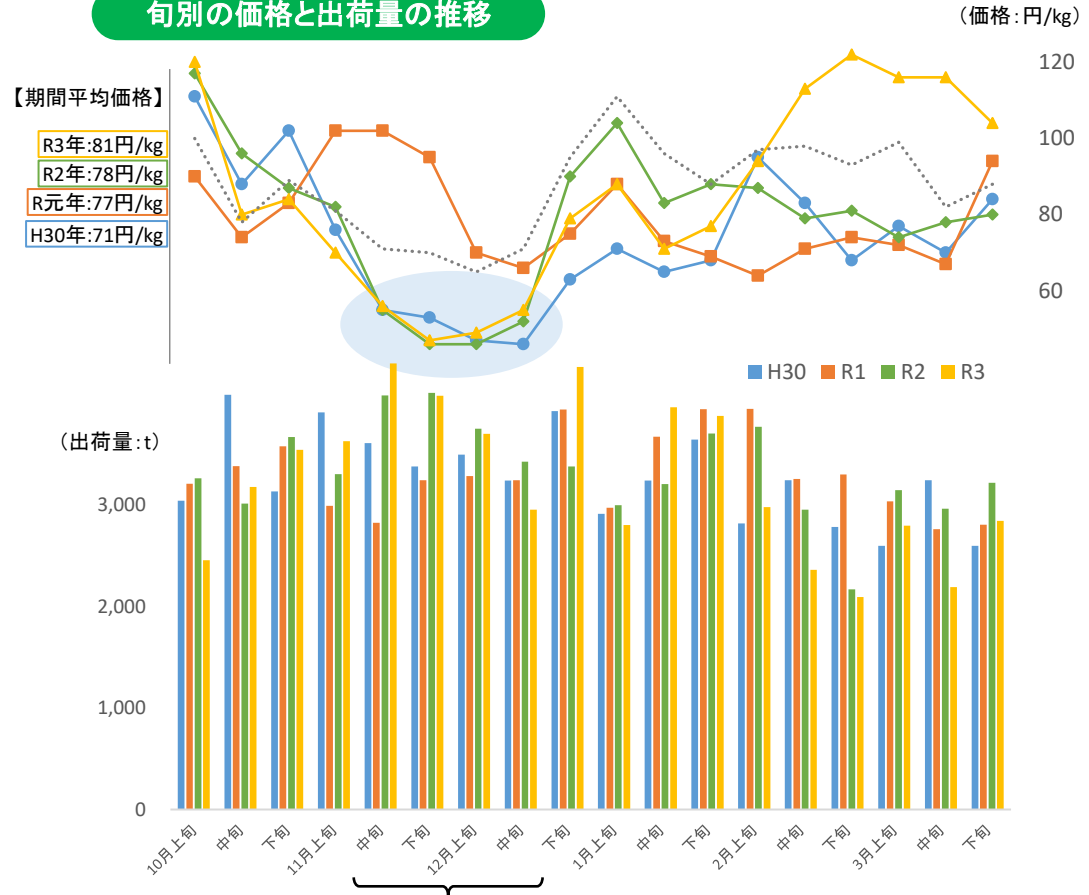
# 秋冬だいこん(10月～3月)の動向 ②

## 価格と出荷量の推移



※東京都中央卸売市場(9市場)における出荷量・価格

## 旬別の価格と出荷量の推移



● 11月中旬～12月中旬の主産県 (価格が低落したH30年、R2年、R3年)

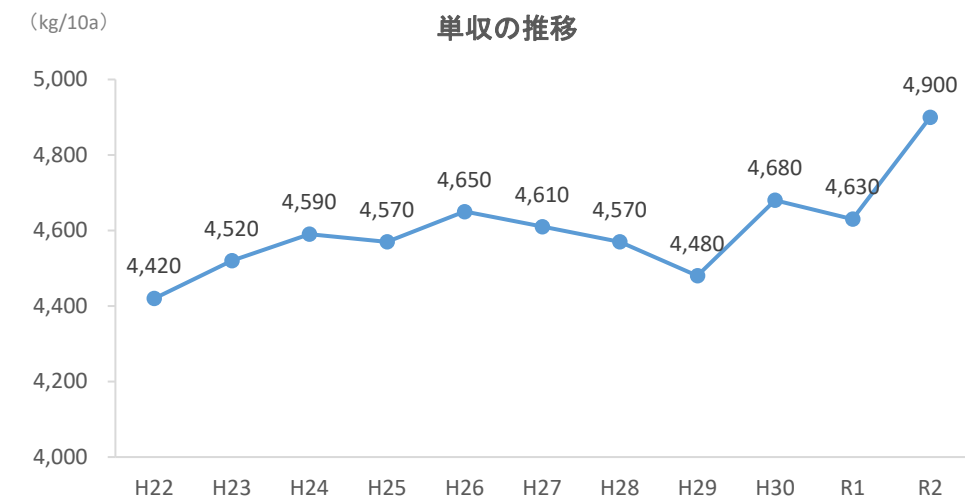
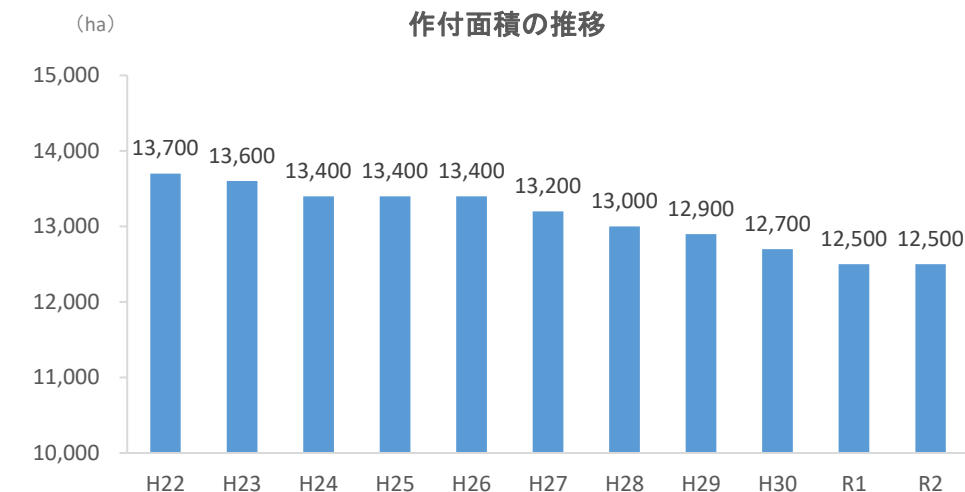
(単位:t)

	H30年	R2年	R3年
千葉県	6,840	8,470	8,397
神奈川県	5,032	4,734	4,444
茨城県	871	1,276	1,357
青森県	243	栃木県 210	徳島県 274
徳島県	186	青森県 199	青森県 227
全体合計	13,736	全体合計 15,370	全体合計 15,138

※東京都中央卸売市場のうち4市場(築地、大田、豊島、淀橋)における出荷量・価格

# 秋冬はくさい(10月～3月)の動向 ①

- 中長期的比較では、全体作付面積は約7%減少しており、特筆して大きく作付面積を拡大している都道府県もないものの、単収の増加によって出荷量は約3%増加し、価格は低落傾向。
- 年により差があるものの、11月中旬から12月下旬に大きく低落し、その後出荷期間後期まで低落が続く傾向が見られる。

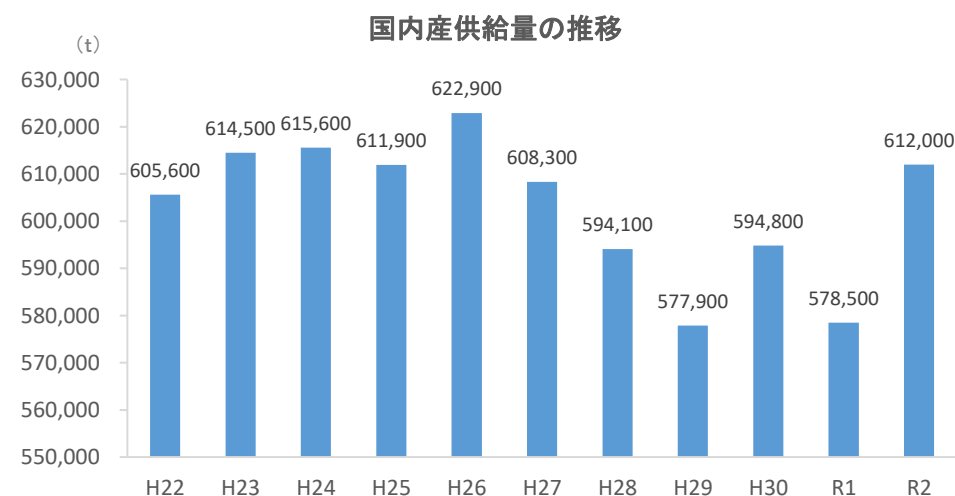


### 出荷量上位

順位	出荷量(t)		作付面積(ha)	
	H22-H24平均	H30-R2平均	H22-H24平均	H30-R2平均
1. 茨城県	170,333	173,967 (+2.1%)	2,607	2,673 (+2.5%)
2. 長野県	37,700	48,667 (+29.1%)	601	727 (+21.0%)
3. 大分県	15,100	18,300 (+21.2%)	332	347 (+4.5%)
4. 愛知県	23,833	17,733 (▲25.6%)	523	387 (▲26.0%)
5. 鹿児島県	17,567	17,567 (±0%)	388	358 (▲7.7%)
全合計	455,700	468,200 (+2.7%)	13,567	12,567 (▲7.4%)

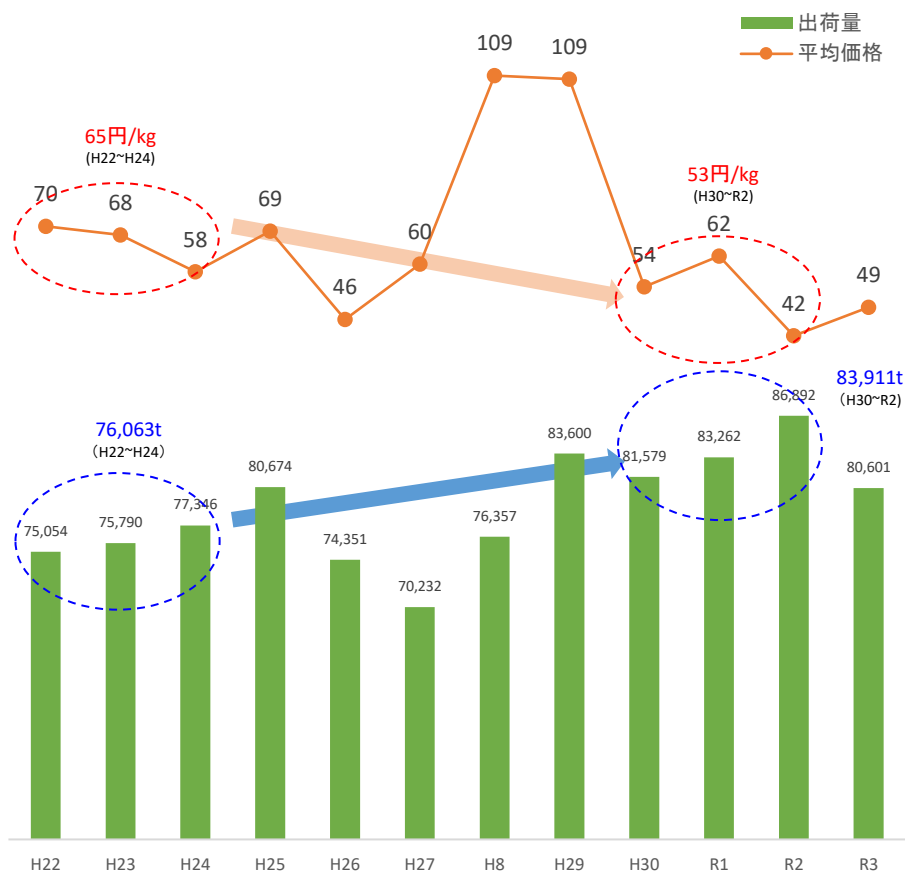
### 面積増加率上位

順位	作付面積増加割合		出荷量(t)	
	H22-H24平均	H30-R2平均	H22-H24平均	H30-R2平均
1. 長野県	+29.1%	(601ha → 727ha)	37,700	48,667 (+29.1%)
2. 宮崎県	+15.6%	(179ha → 201ha)	6,620	8,127 (+22.8%)
3. 千葉県	+8.6%	(220ha → 239ha)	5,703	5,267 (▲7.6%)
4. 長崎県	+5.5%	(181ha → 191ha)	7,057	7,453 (+5.6%)
5. 大分県	+4.5%	(347ha → 332ha)	15,100	18,300 (+21.2%)



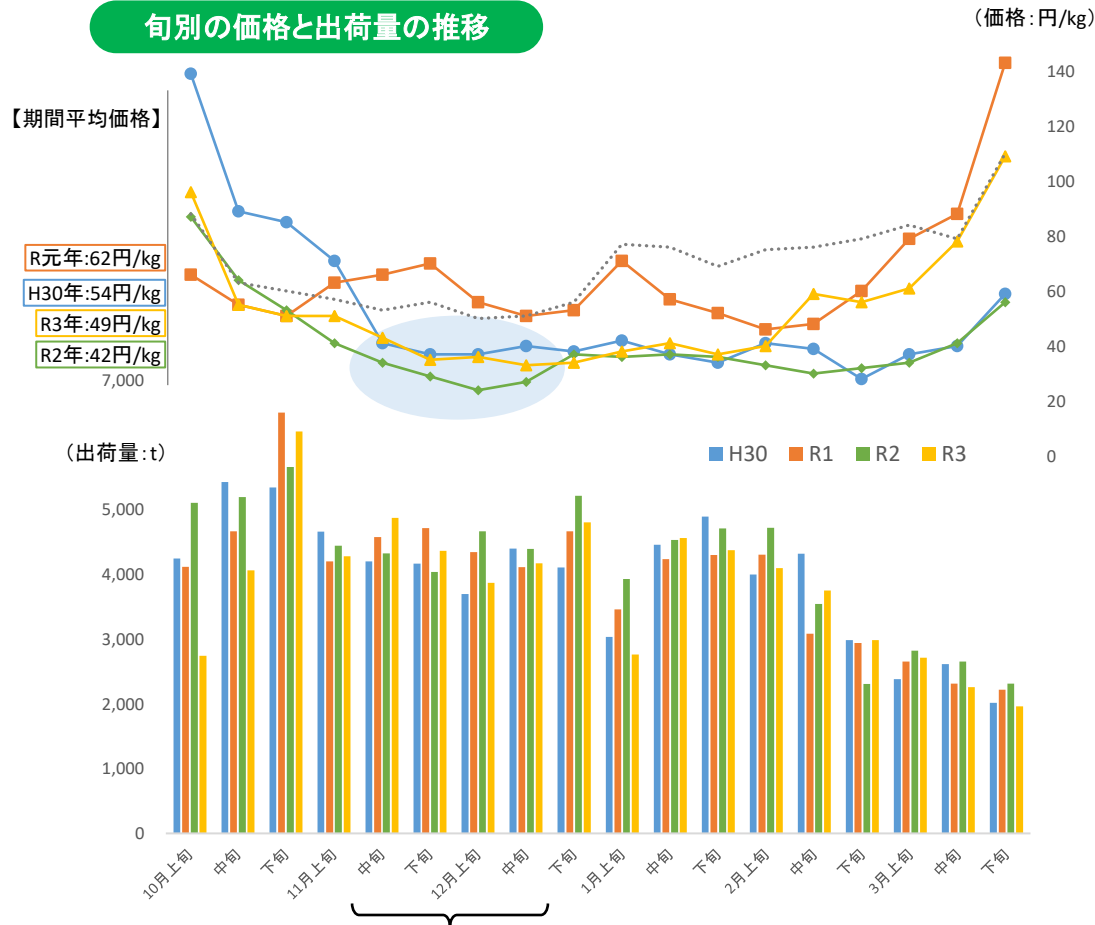
# 秋冬はくさい(10月～3月)の動向 ②

## 価格と出荷量の推移



※東京都中央卸売市場(9市場)における出荷量・価格

## 旬別の価格と出荷量の推移



● 11月中旬～12月中旬の主産県 (価格が低落したH30年、R2年、R3年) (単位: t)

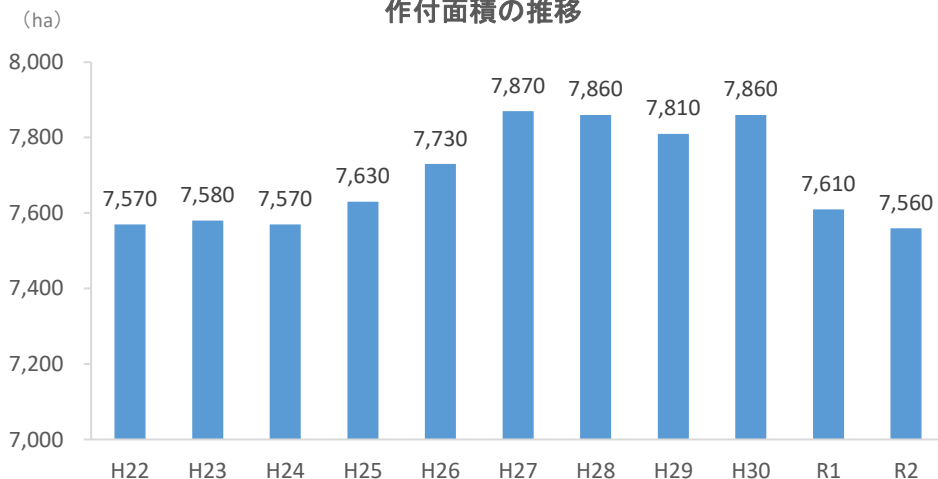
	H30年	R2年	R3年
茨城県	15,170	16,233	15,637
群馬県	499	495	862
長野県	417	348	455
宮城県	92	96	116
埼玉県	63	54	73
全体合計	16,456	17,415	17,269

※東京都中央卸売市場のうち4市場(築地、大田、豊島、淀橋)における出荷量・価格

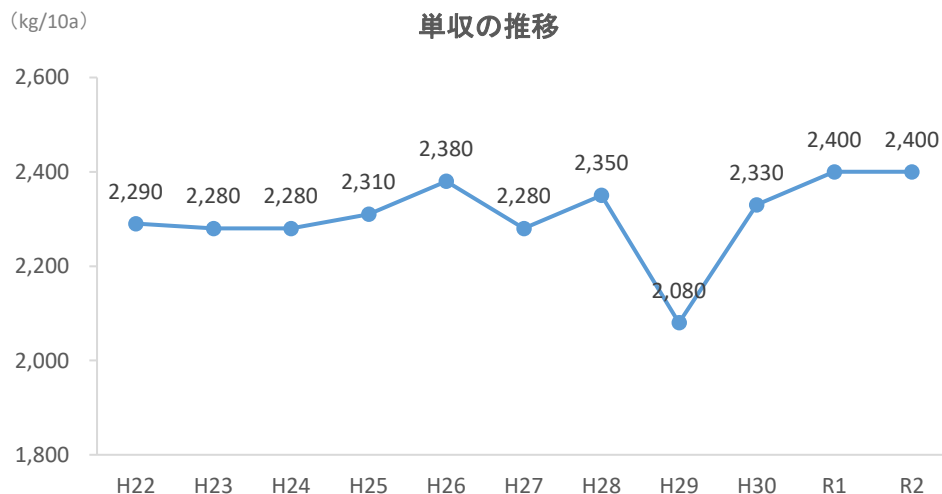
# 冬レタス(11月～3月)の動向 ①

- 中長期的比較では、作付面積は約1%拡大した上、単収も向上したため、出荷量は約6%増加し、価格は低落傾向。
- 年により差があるものの、出回りの11月上旬から12月上旬にかけて価格が低落する傾向が見られる。

### 作付面積の推移



### 単収の推移



出典: 野菜生産出荷統計等

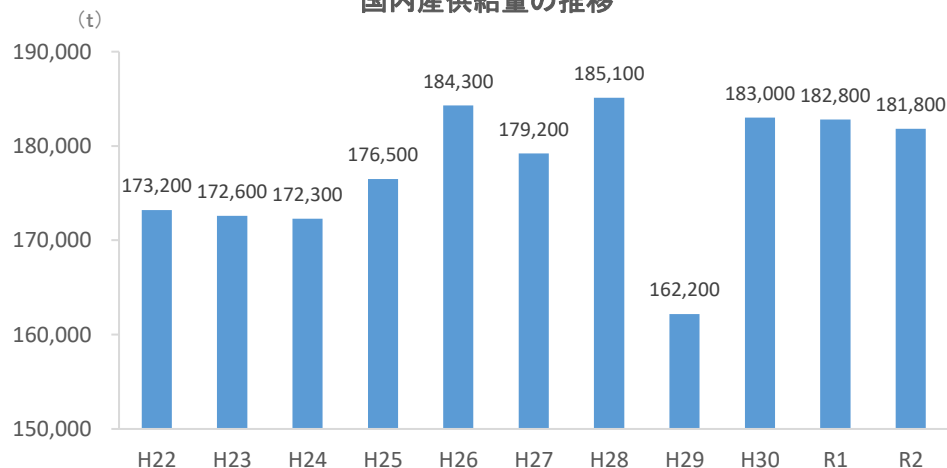
### 出荷量上位

	出荷量(t) (H22-H24平均 → H30-R2平均)	作付面積(ha) (H22-H24平均 → H30-R2平均)
1. 茨城県	32,200 → <b>30,267</b> (▲6.0%)	1,480 → 1,373 (▲7.2%)
2. 長崎県	16,700 → <b>22,500</b> (+34.7%)	570 → 686 (+20.4%)
3. 静岡県	17,100 → <b>21,733</b> (+27.1%)	690 → 818 (+18.6%)
4. 兵庫県	20,867 → <b>21,167</b> (+1.4%)	855 → 871 (+1.9%)
5. 香川県	15,700 → <b>13,833</b> (▲11.9%)	838 → 669 (▲20.2%)
全合計	162,133 → 172,100 (+6.1%)	7,757 → 7,853 (+1.2%)

### 面積増加率上位

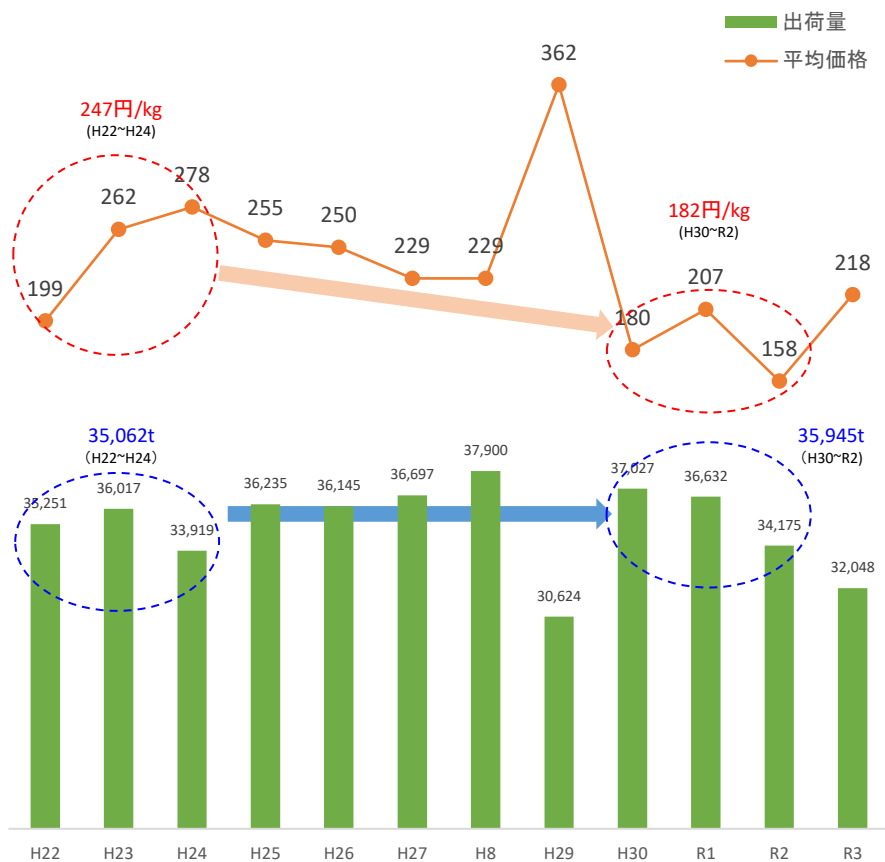
	作付面積増加割合 (H22-H24平均 → H30-R2平均)	出荷量(t) (H22-H24平均 → H30-R2平均)
1. 沖縄県	+70.1% (117ha → 199ha)	2,450 → 3,217 (+31.3%)
2. 長崎県	+20.4% (570ha → 686ha)	16,700 → 22,500 (+34.7%)
3. 静岡県	+18.6% (690ha → 818ha)	17,100 → 21,733 (+27.1%)
4. 鹿児島県	+17.3% (191ha → 224ha)	3,713 → 4,837 (+30.3%)
5. 福岡県	+15.0% (621ha → 714ha)	10,223 → 11,200 (+9.6%)

### 国内産供給量の推移



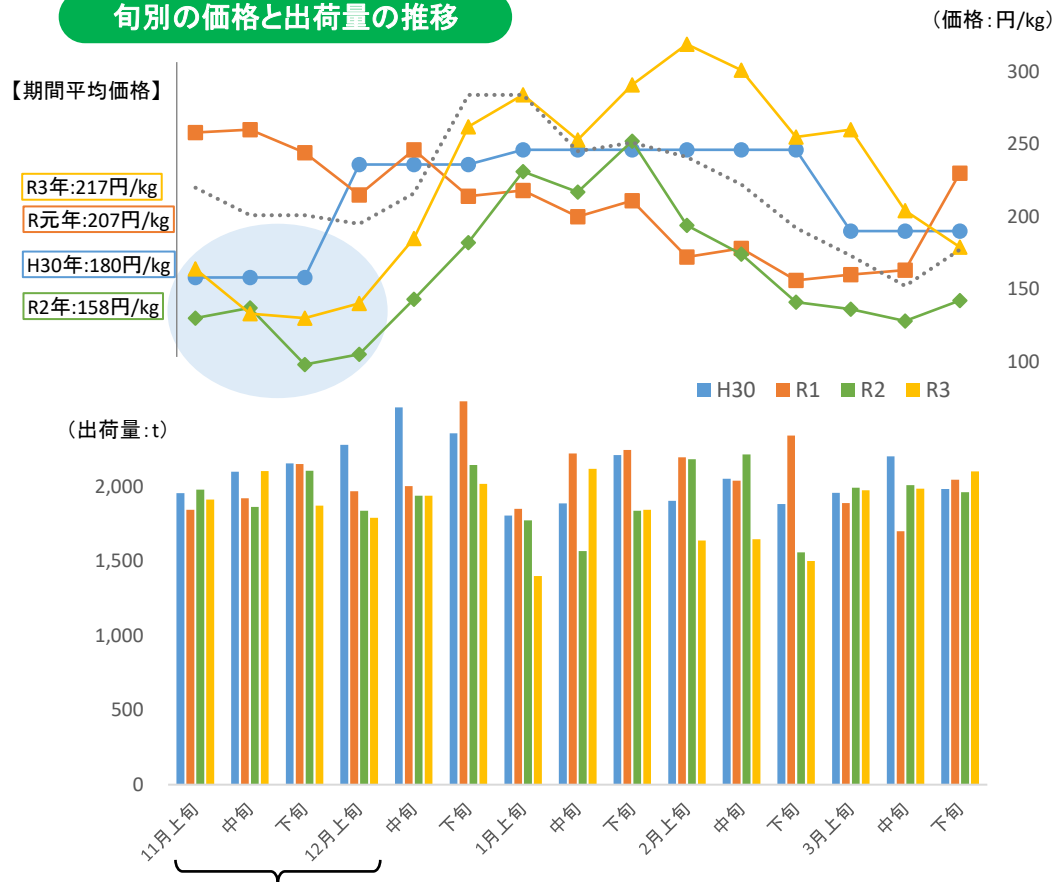
# 冬レタス(11月~3月)の動向 ②

## 価格と出荷量の推移



※東京都中央卸売市場(9市場)における出荷量・価格

## 旬別の価格と出荷量の推移



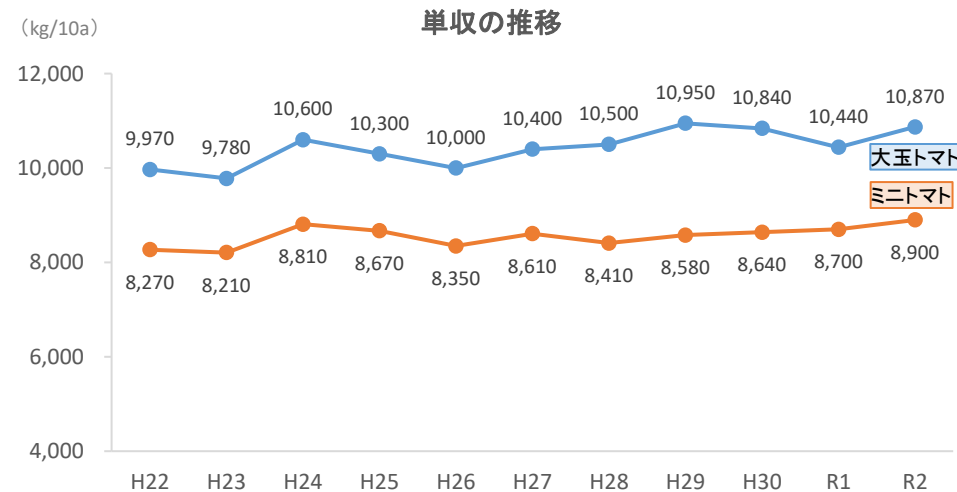
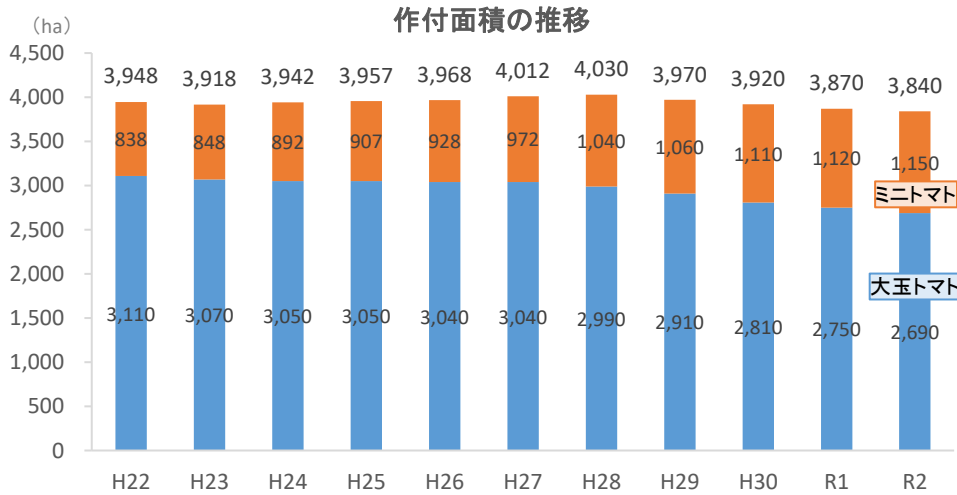
● 11月上旬~12月上旬の主産県 (価格が低落したH30年,R2年,R3年) (単位: t)

	H30年	R2年	R3年
茨城県	5,382	3,726	4,353
栃木県	574	1,280	1,070
兵庫県	477	969	679
長崎県	408	448	324
福岡県	274	387	310
全体合計	7,738	7,792	7,684

※東京都中央卸売市場のうち4市場(築地、大田、豊島、淀橋)における出荷量・価格

# 冬春トマト(12月～6月)の動向 ①

- 中長期的比較では、作付面積は約1%と微減(大玉が大きく減少する一方、ミニが増加)だが、単収が向上したため、出荷量は約8%増加し、価格は低落傾向。
- 1月上中旬頃に価格が低落するほか、5月上旬から6月下旬に出荷量が大きく増加し、価格が低落する傾向が見られる。

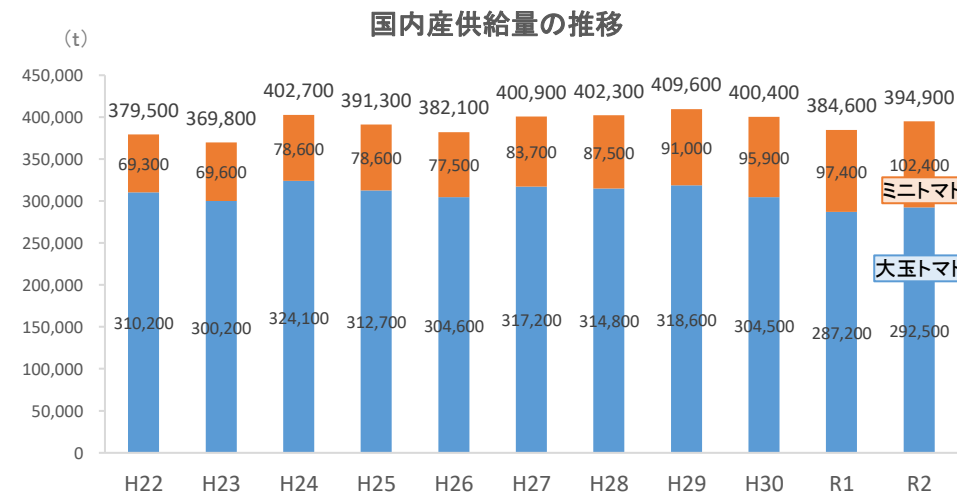


### 出荷量上位

	出荷量(t) (H22-H24平均 → H30-R2平均)	作付面積(ha) (H22-H24平均 → H30-R2平均)
1. 熊本県	76,567 → <b>108,867</b> (+42.2%)	739 → 841 (+13.8%)
2. 愛知県	39,200 → <b>38,933</b> (▲0.7%)	416 → 394 (▲5.3%)
3. 栃木県	25,867 → <b>26,400</b> (+2.1%)	232 → 205 (▲11.6%)
4. 福岡県	16,567 → <b>16,167</b> (▲2.4%)	135 → 124 (▲8.1%)
5. 千葉県	22,033 → <b>16,133</b> (▲26.8%)	315 → 276 (▲12.4%)
全合計	351,167 → 377,700 (+7.6%)	3,947 → 3,920 (▲0.7%)

### 面積増加率上位

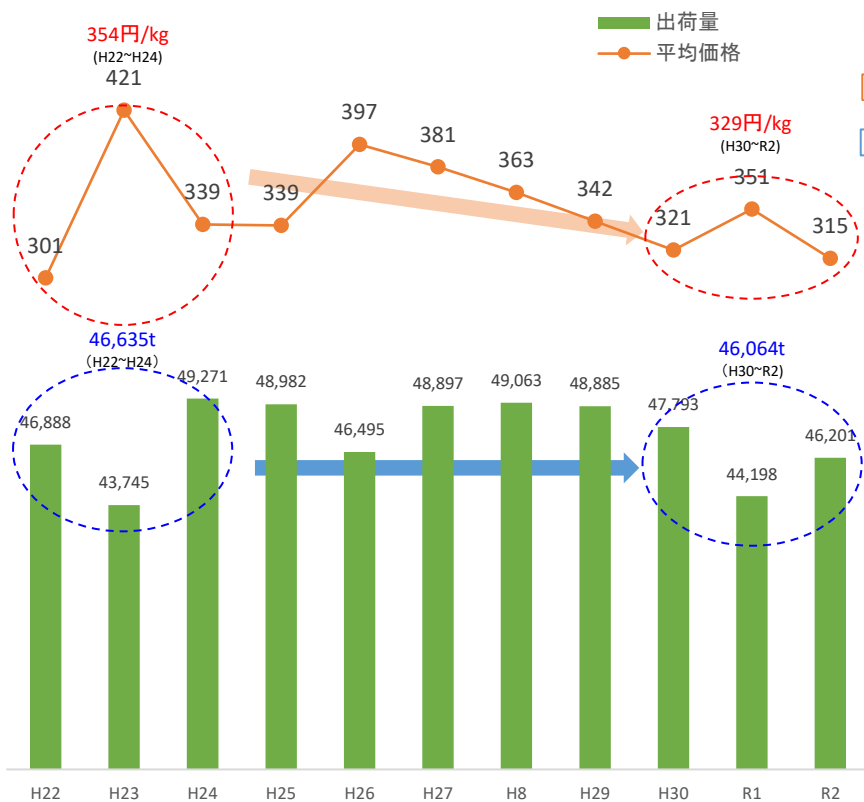
	作付面積増加割合 (H22-H24平均 → H30-R2平均)	出荷量(t) (H22-H24平均 → H30-R2平均)
1. 沖縄県	+16.7% (48ha → 56ha)	2,197 → 2,930 (+33.4%)
2. 滋賀県	+14.8% (18ha → 21ha)	916 → 1,080 (+17.9%)
3. 熊本県	+13.7% (739ha → 841ha)	76,567 → 108,867 (+42.2%)
4. 静岡県	+9.5% (151ha → 165ha)	10,037 → 10,967 (+9.3%)
5. 兵庫県	+8.5% (47ha → 51ha)	2,080 → 4,497 (+116.2%)



出典: 野菜生産出荷統計等

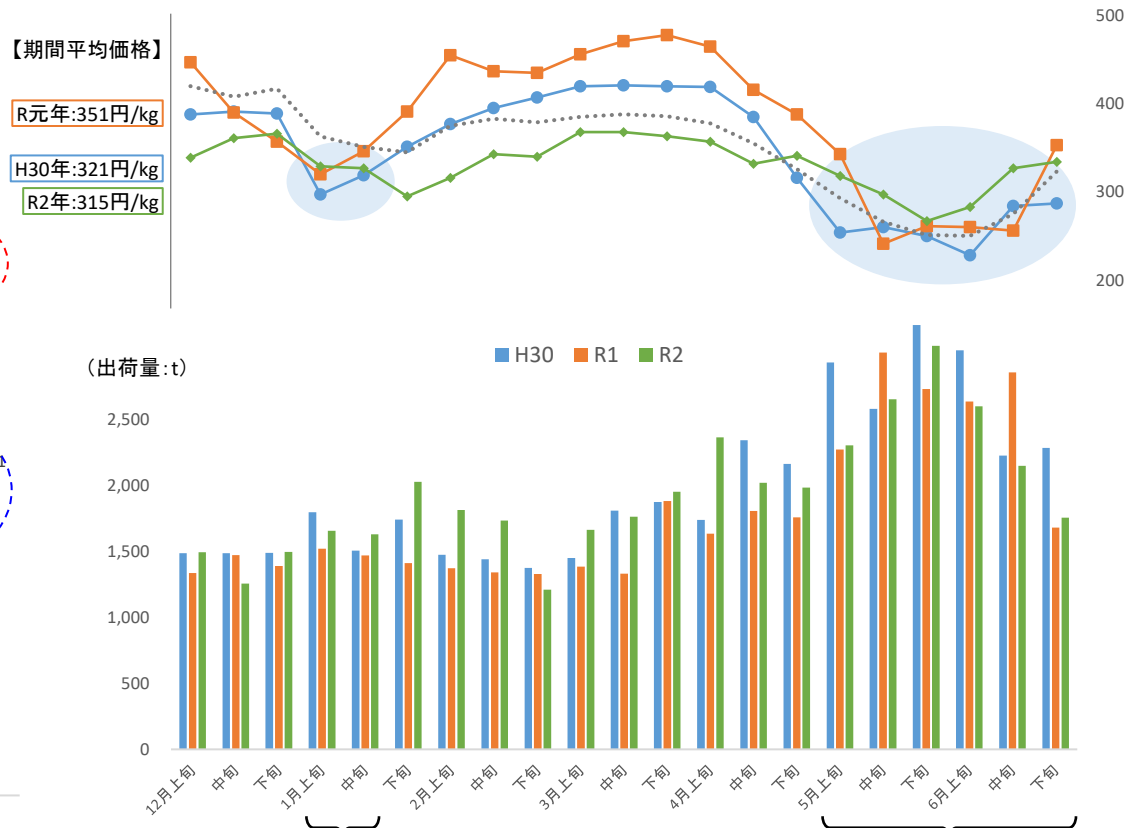
# 冬春トマト(12月～6月)の動向 ②

## 価格と出荷量の推移



※東京都中央卸売市場(9市場)における出荷量・価格

## 旬別の価格と出荷量の推移



### ● 1月上旬～中旬の主産県

(単位:t)

	H30年	R元年	R2年
熊本県	1,379	熊本県 1,295	熊本県 1,456
栃木県	692	栃木県 511	栃木県 631
愛知県	509	愛知県 493	愛知県 502
静岡県	172	千葉県 135	静岡県 162
千葉県	166	静岡県 132	千葉県 120
全体合計	3,300	全体合計 2,989	全体合計 3,284

### ● 5月上旬～6月下旬の主産県

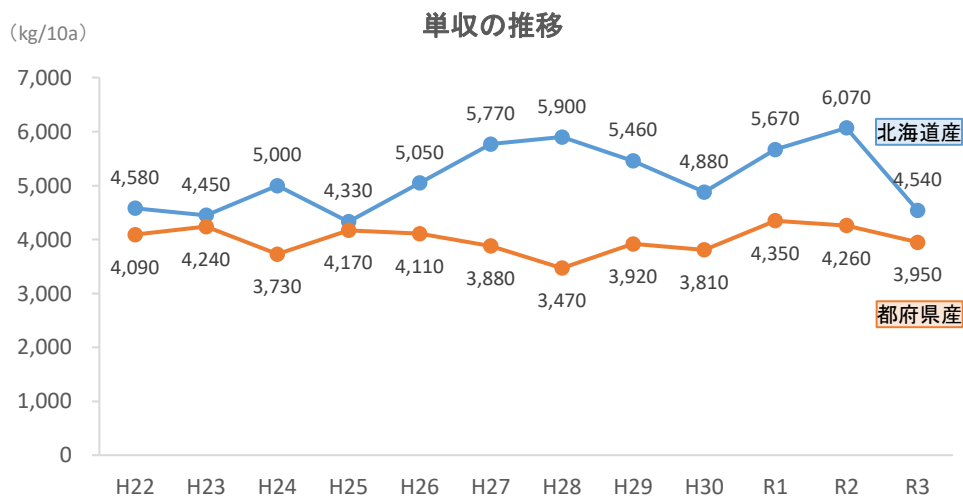
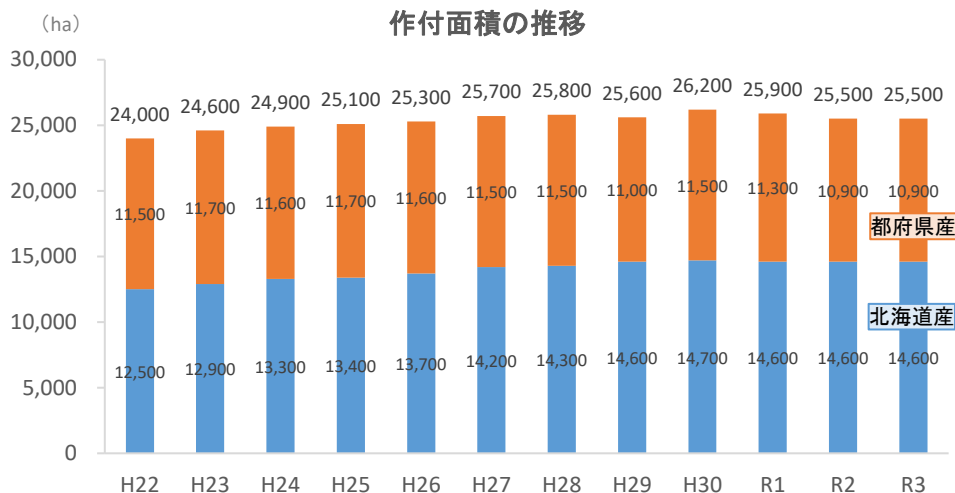
(単位:t)

	H30年	R元年	R2年
栃木県	4,140	栃木県 3,889	栃木県 3,788
熊本県	3,520	熊本県 3,334	熊本県 3,309
愛知県	2,034	愛知県 1,936	愛知県 1,780
千葉県	1,646	千葉県 1,329	千葉県 1,317
茨城県	1,269	茨城県 1,062	茨城県 906
全体合計	16,248	全体合計 15,169	全体合計 14,507

※東京都中央卸売市場のうち4市場(築地、大田、豊島、淀橋)における出荷量・価格

# たまねぎ(4月～3月)の動向 ①

- 中長期的比較では、作付面積は約6%、出荷量は約23%と大幅に増加し、価格は低落傾向。
- 令和3年産の不作によって令和3年秋以降は高値となったが、令和2年・3年においては、北海道産と本州産の出回りが重なる4月に大幅な安値となった。

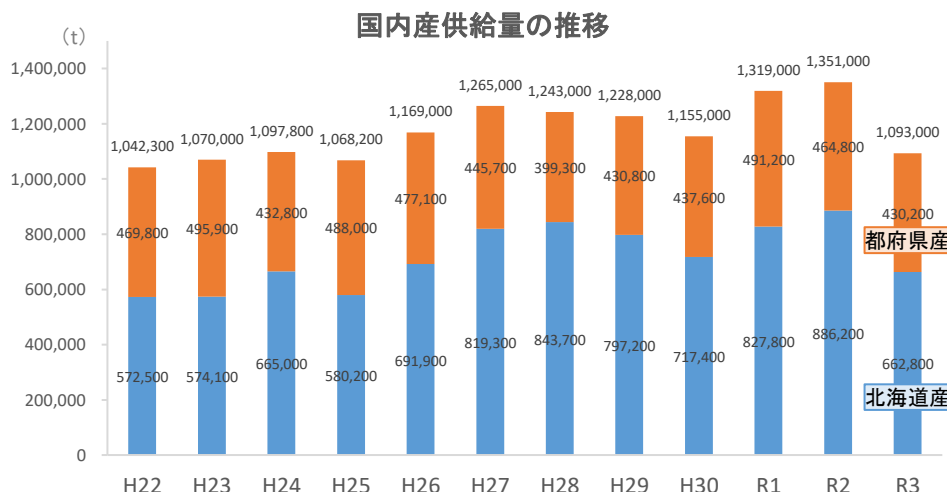


### 出荷量上位

	出荷量(t) (H22-H24平均 → H30-R2平均)	作付面積(ha) (H22-H24平均 → H30-R2平均)
1. 北海道	560,000 → <b>767,567</b> (+37.1%)	12,900 → 14,633 (+13.4%)
2. 佐賀県	130,300 → <b>113,000</b> (▲13.3%)	2,827 → 2,290 (▲29.0%)
3. 兵庫県	81,567 → <b>89,333</b> (+9.5%)	1,687 → 1,670 (▲1.0%)
4. 長崎県	24,767 → <b>29,233</b> (+18.0%)	677 → 849 (+25.5%)
5. 愛知県	28,500 → <b>24,967</b> (▲12.4%)	654 → 547 (▲16.3%)
全合計	941,967 → 1,155,333 (+22.7%)	24,500 → 25,867 (+5.6%)

### 面積増加率上位

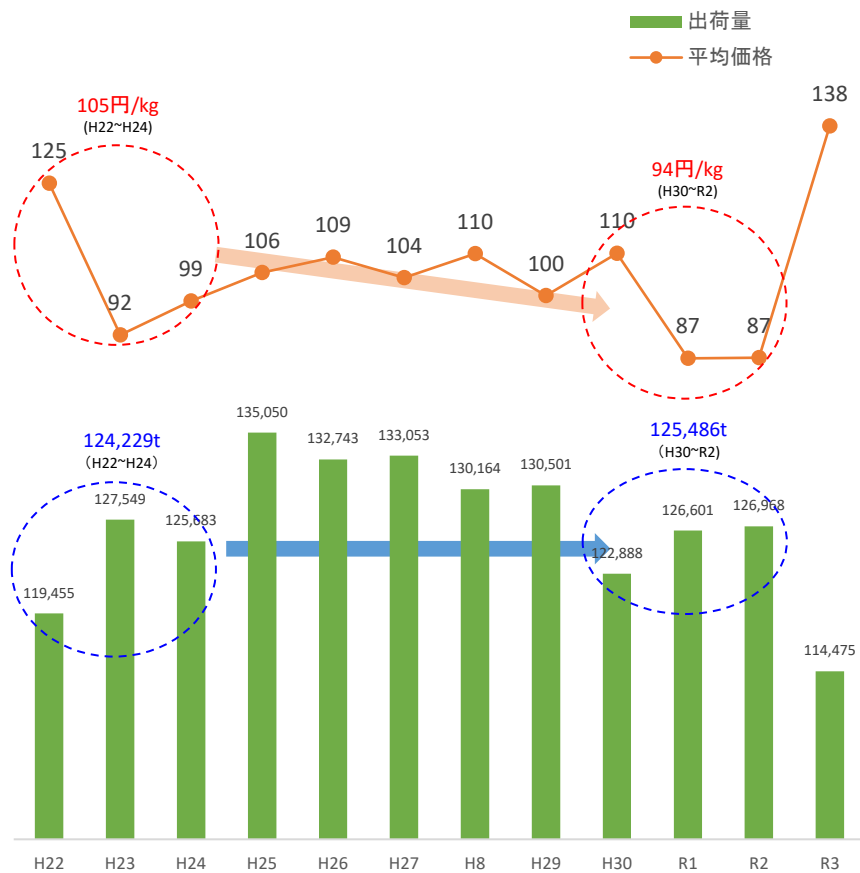
	作付面積増加割合 (H22-H24平均 → H30-R2平均)	出荷量(t) (H22-H24平均 → H30-R2平均)
1. 富山県	+137.8% (93ha → 220ha)	1,125 → 7,057 (+527.4%)
2. 長崎県	+25.5% (677ha → 849ha)	24,767 → 29,233 (+18.0%)
3. 愛媛県	+23.4% (261ha → 322ha)	7,183 → 7,970 (+11.0%)
4. 茨城県	+21.2% (148ha → 179ha)	2,377 → 3,817 (+60.6%)
5. 北海道	+13.4% (12,900ha → 14,633ha)	560,000 → 767,567 (+37.1%)





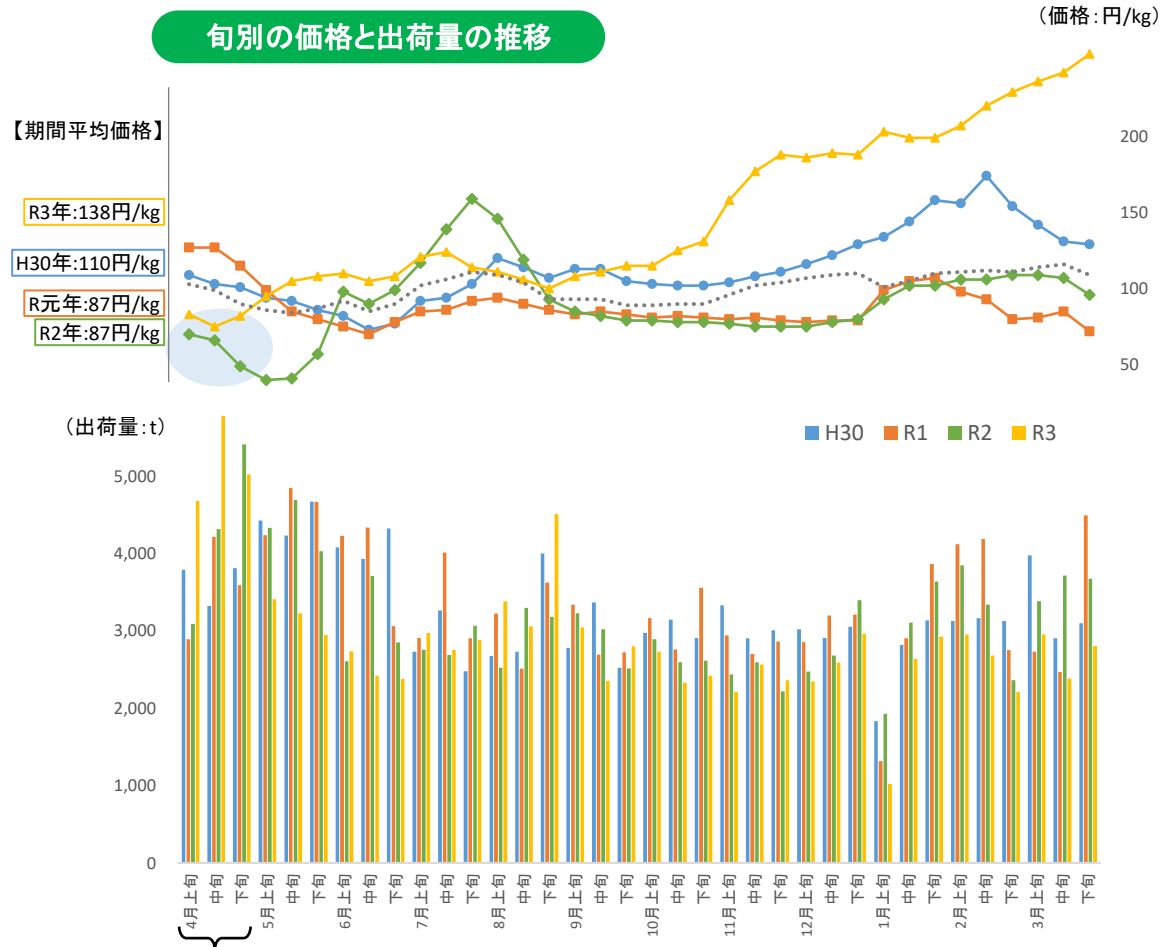
# たまねぎ(4月～3月)の動向 ②

## 価格と出荷量の推移



※東京都中央卸売市場(9市場)における出荷量・価格

## 旬別の価格と出荷量の推移



● 4月上旬～下旬の主産県 (高値のR元年、安値のR2年・R3年の比較)

(単位:t)

	R元年	R2年	R3年
佐賀県	4,945	佐賀県 6,349	佐賀県 8,345
北海道	4,309	北海道 5,219	北海道 5,633
静岡県	421	熊本県 489	静岡県 632
熊本県	325	静岡県 283	熊本県 451
長崎県	133	長崎県 193	兵庫県 85
全体合計	10,697	全体合計 12,814	全体合計 15,476

※東京都中央卸売市場のうち4市場(築地、大田、豊島、淀橋)における出荷量・価格